

基本方針

「グローバル・ロジスティクス・プロバイダーとして、
新領域事業への挑戦とコア事業の深耕化を図るとともに、ESG経営に取り組む」

【コア事業の深耕化】
(=事業ポートフォリオの見直し)

営業体制を産業別の体制へ変更、3次元(事業別、産業別、地域別)での事業管理体制を整え、事業拡大を目指す

【ESG経営】

持続可能な社会の実現に向け、責任ある企業活動を推進

【新領域事業】

従来とは異なる発想により新たな物流関連事業を創出

期間

2022年4月～2027年3月(5年間)

5年間を下記の2つの期間に分け、目標達成と高い企業価値の創造を目指す

フェーズ1(22年4月～24年3月)
次世代(Society5.0)に適応する事業基盤・経営基盤の構築

フェーズ2(24年4月～27年3月)
施策の確実な実行と更なる成長の実現

NN7の数値目標はフェーズ1とフェーズ2にてフェーズごとに設定

数値目標

<フェーズ1> 2022年度～2023年度 (2024年3月期 目標)

売上高： **1,900億円**
営業利益： **85億円**
経常利益： **90億円**
当期純利益： **65億円**
ROE： **8.0%程度**

<フェーズ2> 2024年度～2026年度 (2027年3月期 目標)

売上高： **2,750億円**
営業利益： **110億円**
経常利益： **115億円**
当期純利益： **86億円**
ROE： **9.0%程度**

投資

投資計画 **250～300億円**

施設関連への投資

- ・神奈川埠頭： **50億円**
- ・栃木芳賀倉庫： **50億円**
- ・その他国内、海外： **100～150億円**

その他、重点分野への投資 **50億円**

- ・IT・デジタル化の推進
- ・ESG
- ・M&A戦略
- ・人材開発 等

① DXの推進

- ・「営業」、「現業」、「管理」の3領域においてDXを加速・強化

② ESG経営の推進

- ・グリーン経営の推進、人材の育成、多様性の確保、サステナビリティ推進体制の構築
- ・マテリアリティ特定
- ・TCFD対応

③ 事業ポートフォリオ戦略の推進

- ・ポートフォリオを「事業別」、「産業別」、「地域別」で管理
- ・収益分析を進め、効率的な事業運営と投資を実施

最先端デジタル技術の活用によるDXの加速・強化

D
X

営業拡大



- デジタルフォワーディングサービスのオンライン化
- IoTを活用した国際物流の可視化サービス
- リターナブル容器サービスの進化
- 貿易プラットフォーム（トレードワルツ）との連携

業務 効率化



- 貨物情報共有システムの構築
- IoTによる現場の最適化
- サイバーポート・CONPASとの連携
- AI・OCRによる手配業務の効率化

サステナビリティの専門組織を立ち上げ、課題の解決、推進に対応

サステナビリティ基本方針

社会の持続的な発展に貢献できるサービスの提供で各ステークホルダーの方々の期待に沿える豊かな社会の実現を図る（要旨）

パーパス

「世界の人々に感動を運び、地球を笑顔で満たす」企業を目指す

サステナビリティ推進体制

経営トップを委員長とするサステナビリティ委員会のもとで、サステナビリティ推進室を新設し、具体的な進捗を図る

③事業ポートフォリオ戦略の推進

各地域の重点取組み

地域	ROIC 実績 (22/3期)	取組み
日本	3.8%	営業組織体制の産業別再編とワンストップ営業の導入 新基幹システムやDXを活用した効率的な営業の推進 医薬品物流、食品物流の強化
アジア	20.0%	自動車関連物流以外の事業拡大 倉庫施設の拡充 域内物流の拡大とプロキュアメント力の強化
中国	17.7%	グループ会社の経営効率化、会社規模拡大による営業力、購買力の強化、拠点網の拡充 倉庫事業の強化
米州	15.5%	アライアンスパートナーとの協業、現地法人未進出エリア代理店との連携強化 地場企業との取引拡大
欧州	3.2%	食品や医薬品等に特化した独自サービスの開発

※旅行、不動産は含まず